

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2771000359
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホーム さくらんぼ
所在地	〒555-0043 大阪市西淀川区大野2-1-14 (電話) 06-6474-9732

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年6月1日
評価確定日	平成21年7月10日

【情報提供票より】(平成 21 年 4 月 30 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	4 階建ての 3 階 ~ 4 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	40,500 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000. 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(4 月 30 日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低 72 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	名取病院、なとりクリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

西淀川区を中心に医療と保健・福祉を地域に展開する医療法人を母体とする当該ホームは、法人の病院や施設、ケアプランセンターが併設された一角に位置しています。病院である法人のバックアップを受け、理念に添って積極的にターミナルケアに取り組まれ、看護師の常駐もあり、利用者や家族にとって安心して暮らすことが出来る配慮がなされています。家族会の開催も含め家族との関係を大切にすることで、頻繁に家族の面会があります。利用者の誕生日には家族にバースデーカードを書いてもらい、利用者にはプレゼントをして喜ばれています。職員一人ひとりが利用者の今を大切に思い、医療と介護の両面から利用者や家族を支えているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	前回の評価結果を受けて、建物が施設っぽくならない配慮として、玄関先やリビング、居室に花を飾り、木の看板や壁面に利用者の作品を飾り、温かみのある雰囲気を出すよう工夫され改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目③	今回は職員に白紙の自己評価票を配布し、各職員に項目を振り分け記入してもらい、管理者がまとめて作成されています。
重点項目④	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目⑤	運営推進会議は2か月に一度、家族、利用者、町内会長、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員等が参加して開催されています。会議では、毎回利用者の作った壁画や写真等を見てもらい、ホームからの様々な報告がなされ、家族からの提案があったり、地域からの相談に応じるなど、有意義な会議となっています。今後はビデオ等を使った介護の勉強会を予定しています。
重点項目⑥	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目⑦	年に2回、行事と合わせて家族会を開催したり、来訪時に時間を設け家族から直接意見を聞く機会を確保しています。またホーム入口に意見箱を設置したり、書面に外部の苦情窓口を記載しています。出された意見は詰所会議等で検討され、結果を家族に報告し、職員間では申し送りノートにて共有しています。
重点項目⑧	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑨	自治会に加入し、地域の盆踊りや中学校の琴の演奏会、老人会主催のふれあい喫茶に参加しています。地域の入居者が増え、最近では近隣の方の面会も増えつつあります。また地域の人々を対象とした法人主催の介護教室を2か月に一度開催し、毎回ホームからも講師として参画する等、地域に根差した活動を行っています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに、3項目の基本方針を打ち出し、ホーム独自の理念とされている。また職員間で理念の見直しを検討されているが、地域密着型サービスの理念を加えるには至っていない。	○	地域密着型サービスとして、法人と共に日々地域に貢献されている現状を言葉にされ、今ある理念に加えられてはいかがでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の基本理念とホームの理念はホーム入口やリビングに掲示し、会議等でも確認し合っている。また重度化が進み、日々変化する利用者の状況を把握し、常に利用者に関心を持つよう努めるなど、理念に添ったケアを心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の盆踊りや中学校の琴の演奏会、老人会主催のふれあい喫茶に参加している。地域の入居者が増え、最近は近隣の方の面会もある。また地域の人々を対象とした法人主催の介護教室を2か月に一度開催し、毎回ホームからも講師等として参画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を受けて施設っぽくならない配慮として、玄関先やリビング、居室に花を飾り、木の看板や壁面に利用者の作品を飾り、温かみのある雰囲気を出すよう改善されている。また今回は職員に白紙の自己評価票を配布し、各職員に項目を振り分け記入してもらったものを管理者がまとめて作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一度、家族、利用者、町内会長、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員等が参加して開催されている。会議では、毎回利用者の作った壁画や写真等を見てもらい、ホームから様々な報告がなされ、家族からの提案があったり、地域からの相談に応じるなど、有意義な会議となっている。今後はビデオ等を使った介護の勉強会を予定している。		

グループホームさくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の事務長が窓口となり、市担当者に対応しており、何かあれば相談にのってもらっている。また運営推進会議の議事録は毎回市担当者に郵送している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時は頻繁で、利用者の様子や健康状態の報告を行なっている。またホームの季刊誌を発行して家族に手渡したり、郵送している。預かり金は個別のノートに収支を記載し、家族の来訪時にサインをもらい領収書を手渡している。職員の顔写真をホーム入口に掲示し、職員の顔と名前がわかるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、行事の際に家族会を開催したり、来訪時に時間を設け家族から直接意見を聞く機会を確保している。またホーム入口に意見箱を設置したり、書面に外部の苦情窓口を記載している。出された意見は詰所会議等で検討され、結果を家族に報告し、職員間では申し送りノートにて共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームでは担当制としており、利用者と職員の相性をも考慮して配置を決めている。職員の異動等はホーム便りに掲載し家族にも報告され、新しい職員はリーダーについて1か月程かけて馴染んでもらってから、夜勤に入るよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の習熟度に応じて、外部研修に参加してもらっている。また毎月開催される法人内勉強会に参加したり、ホームの勉強会を不定期に開催してスキルアップを図っている。外部研修は報告書を書き、資料と共に閲覧し情報の共有に努めている。また法人のバックアップにより、無資格者も働きながらヘルパー2級が取れる体制が構築されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪府のグループホーム協議会やネットワークに加入し、管理者やリーダーが交流会や勉強会に参加している。また法人内でもホーム同士の応援体制があり、職員が他ホームに出かけたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人・家族に見学してもらったり、職員が自宅や入院先を何度か訪れて、顔を覚えてもらうようになっている。利用者の中には幼なじみの利用者同士もいて、入居の際の安心に繋がっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で、掃除や調理の仕方や段取りを教わり、なるほどと感心させられることも多々ある。手を握ったり、頭をなでてもらうこともあり、スキンシップを取ることで信頼関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度化が進み意思の把握が難しくなってきた中で、出来るだけ利用者に声かけをして、視線や表情から思いを把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の聞き取りや会話の中で、利用者、家族の意見を聞きだし、職員の思いや気づきは申し送りノートに記載され、それをもとに担当職員とケアマネージャー、管理者がカンファレンスを開き、介護計画を作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月モニタリングを行ない、3か月毎に全員のカンファレンスを開き、評価し見直しされ、介護計画を書き換えている。介護記録は日々の健康管理に重点を置き、チェックリストに落とし込み記載している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と共に病院への通院介助を行ったり、利用者の要望で衣類や必需品の買い物に出かけている。また病院内の喫茶店へお茶を飲みに出かけるなど、希望に添った支援を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人を頼って入居された利用者もあり、入居時に希望は聞いているが、全員が提携医を利用している。併設病院より週3回の往診があり、病院内の歯科には必要時に受診している。管理者他、看護師の常駐にて日々の健康管理も万全で、24時間連携体制があり利用者を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては理念にも謳っており、法人のバックアップを受けながらターミナルケアを行っている。家族には入居時に書面にて説明し、職員間でも方針を共有している。管理者を中心に、重度化に対応できるよう勉強会等を重ね、医療面でのスキルアップをも図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	詰所会やカンファレンス時、昼の休憩時間に、利用者に対する言葉かけや対応について職員間で確認し合っている。また個人のファイルは事務所の書棚に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重し、職員は本人のペースやその日の気分に応じた対応を心がけている。調理師として活躍されていた利用者に調理を手伝ってもらったり、ノンアルコールのビールで晩酌気分を味わってもらう等、希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつもは病院から食事が運ばれ、盛り付けや配膳、後片付けを手伝ってもらっている。週に一度調理実習の日を設け、利用者全員が、買い物から片付けに至る一連の作業に出来る範囲で関わり、おやつ作りも含めて、職員と一緒に楽しい時間を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度化にも対応できるように、浴室にイスに座ったまま全身シャワーができる機会浴を設置して足浴と合わせることで、湯船に入れない利用者の支援をしている。ホームでは利用者の希望に合わせて曜日や回数、湯温、時間を決め、拒否がある利用者も週2回は入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理を仕事としている利用者や、花や野菜の水やり、ゴミ捨て等を役割としている利用者もいる。月毎の貼り絵を楽しみにされたり、時には口紅やマニキュアを塗っておしゃれを楽しんでいる。また併設施設のイベントに参加し、気分転換を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は調理実習の際の買い物に職員と出かけたリ、病院屋上にある庭園や近くの公園へ散歩に出かけている。車いすの利用者も個別で戸外に出られるよう支援している。時にはおやつ持参で公園へ出かけたリ、家族を誘って買い物や花見に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していないが、ホーム内はエレベーターでの移動となり、交通量の多い道路に面しているため、安全を考慮して施錠し電子ロックで管理している。職員は施錠の弊害を理解しており、家族にも説明し同意を得ている。外に出たそうにしている利用者には、付き添って散歩に出かける等の対応を常に心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防訓練を開催し、1度は消防署の指導を受け、夜間を想定して避難訓練を行っている。また1度は隣接する法人の避難訓練に参加している。何かあれば隣接の法人の協力が得られる体制になっている。	○	運営推進会議等で地域に呼びかけ、法人の消防訓練の際に地域の人と一緒に参加してもらったり、ホームからも地域の防災訓練に参加する等の取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーは1日1400～1600kcalを目安に献立をたて、水分量も確保できるように時間毎に声かけし、それぞれの摂取量はチェックリストに記載している。利用者の状態に応じて、とろみやミキサー食にしたり、おにぎりも大きさを工夫して提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かみのある家庭的な雰囲気を出す為に、玄関先に花を植え、廊下やリビングの壁面に利用者の貼り絵等の作品を飾っている。また浴室入口に暖簾をかけ、天気の良い日はリビングのカーテンや窓を開け、清潔で明るい雰囲気を大切にしている。廊下に手すりを完備し、リビングの隅にソファを設置するなど、寛ぎの空間を演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は3階と4階に分かれていて、それぞれ洗面所とクローゼット、ベッド、机、椅子が設置されている。利用者はテレビや家族の写真、観葉植物、自作の作品等を飾り、居心地良くされている。また夜間徘徊のある利用者には落下防止のためにベッド下にマットを敷きつめ、落ちてても危なくないよう支援している。		